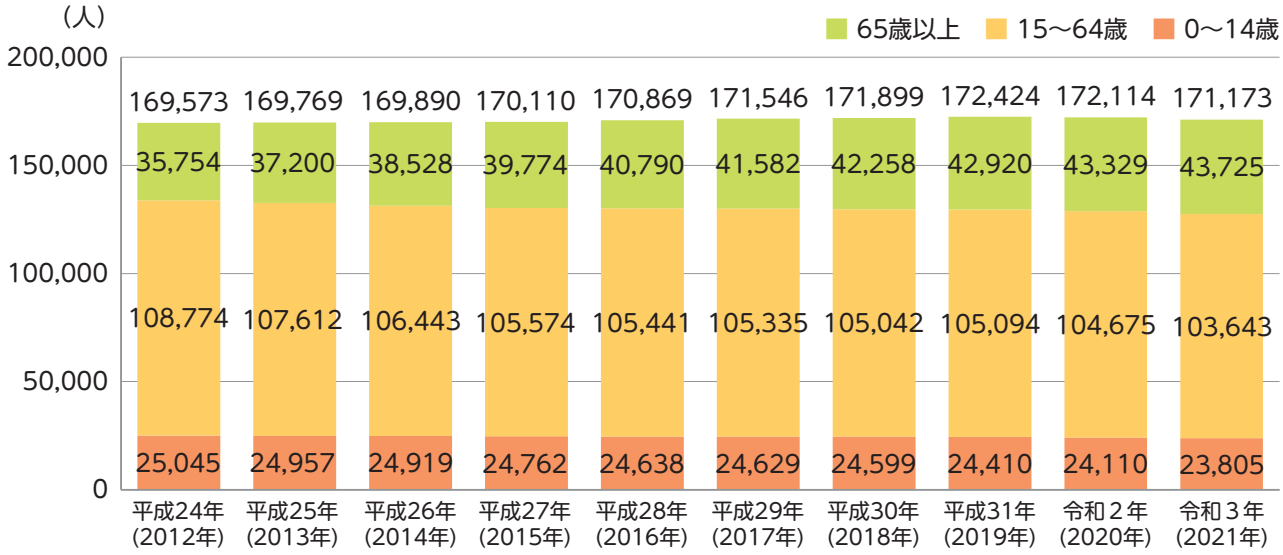
第２章　西尾市の現状と課題

１　統計指標からみる西尾市の現状

（1）人口の推移

総人口は、令和３年（2021年）に171,173人となっており、平成31年（2019年）をピークに減少傾向となっています。年齢３区分別でみると65歳以上の人口が増加しており、高齢化が進んでいることがわかります。

図表１　年齢３区分別人口の推移



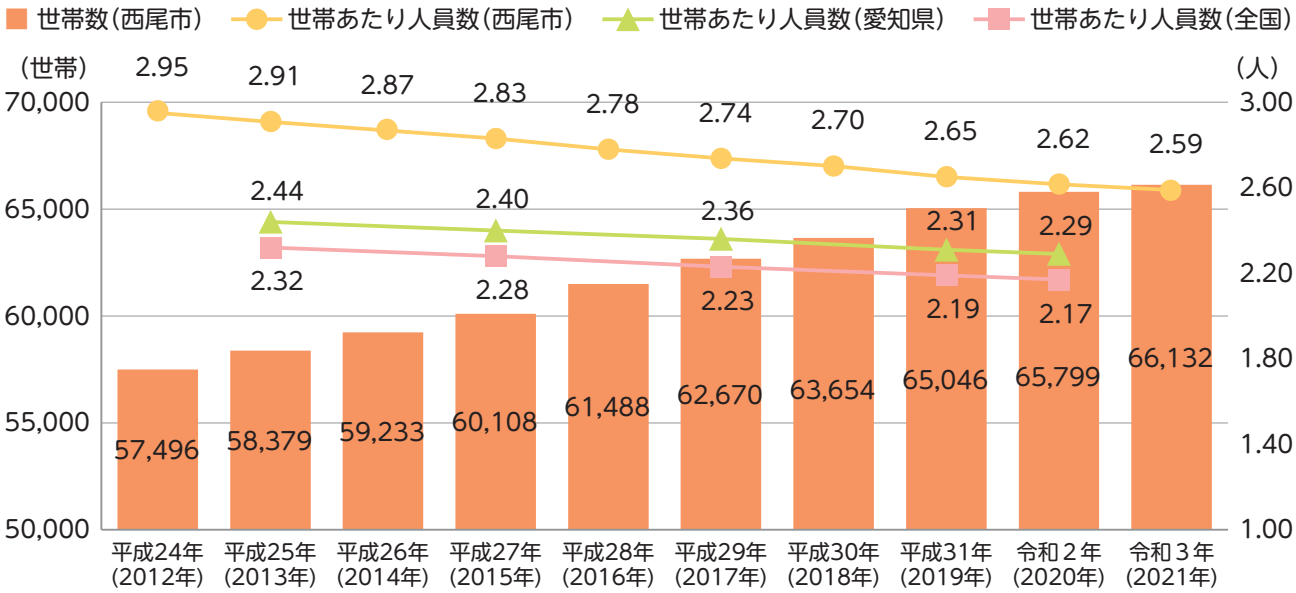
資料：市民課（各年４月１日）

(2) 世帯の状況

世帯数は、令和３年（2021年）に66,132世帯となっており、平成24年（2012年）より8,636世帯増加しています。一方で、世帯あたりの人員数は減少しており、令和３年（2021年）で2.59人となっています。

令和２年現在の世帯あたりの人員数は、全国、愛知県と比較すると上回っています。

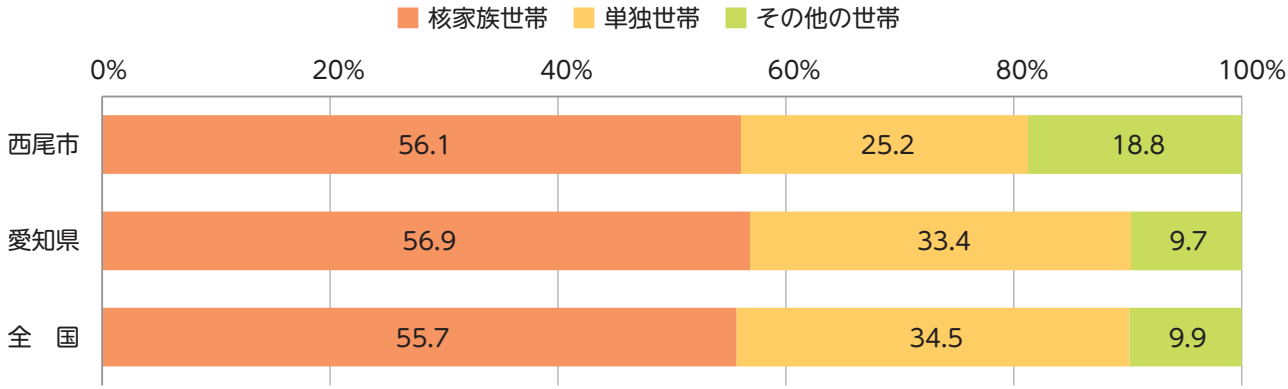
図表２　世帯数及び世帯あたり人員数の推移



資料：西尾の統計（各年４月１日）
資料：総務省自治行政局住民制度課「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」（全国、愛知県）
（平成27年以降は１月１日現在、平成25年は３月31日現在）

世帯種別についてみると、単独世帯が25.2%となっており、国や県と比べて低くなっています。

図表３　世帯種別割合

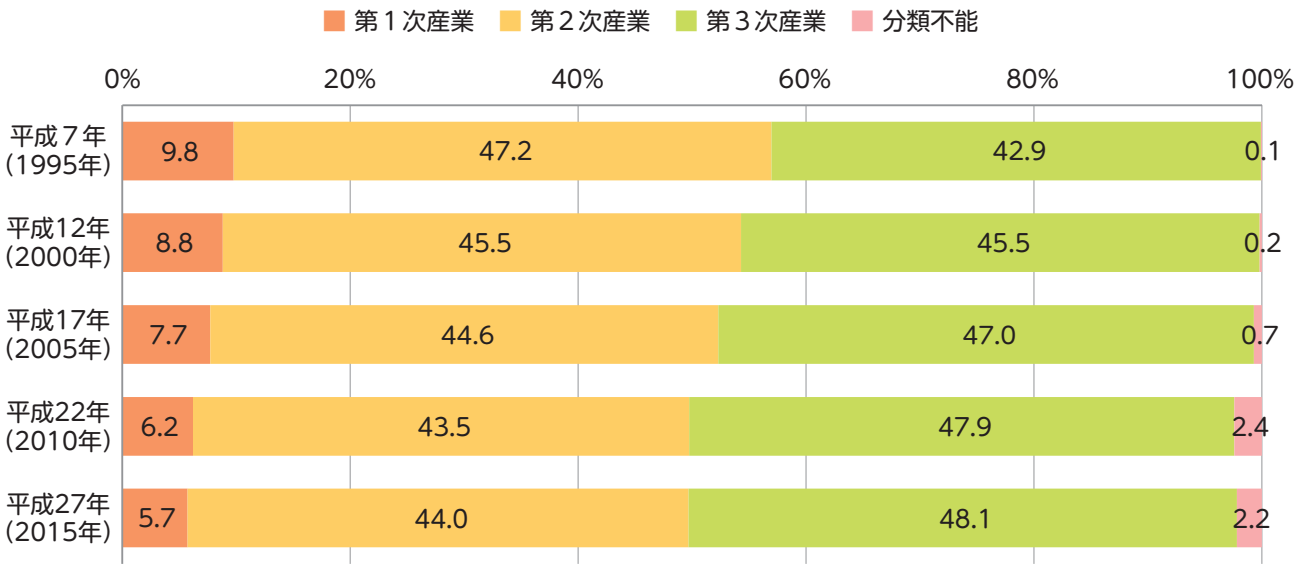


資料：国勢調査（平成27年（2015年））

(3) 産業別就業者

産業別就業者数の推移についてみると、第１次及び第２次産業が減少し、第３次産業が増加している状況となっています。

図表４　産業別就業者数の推移

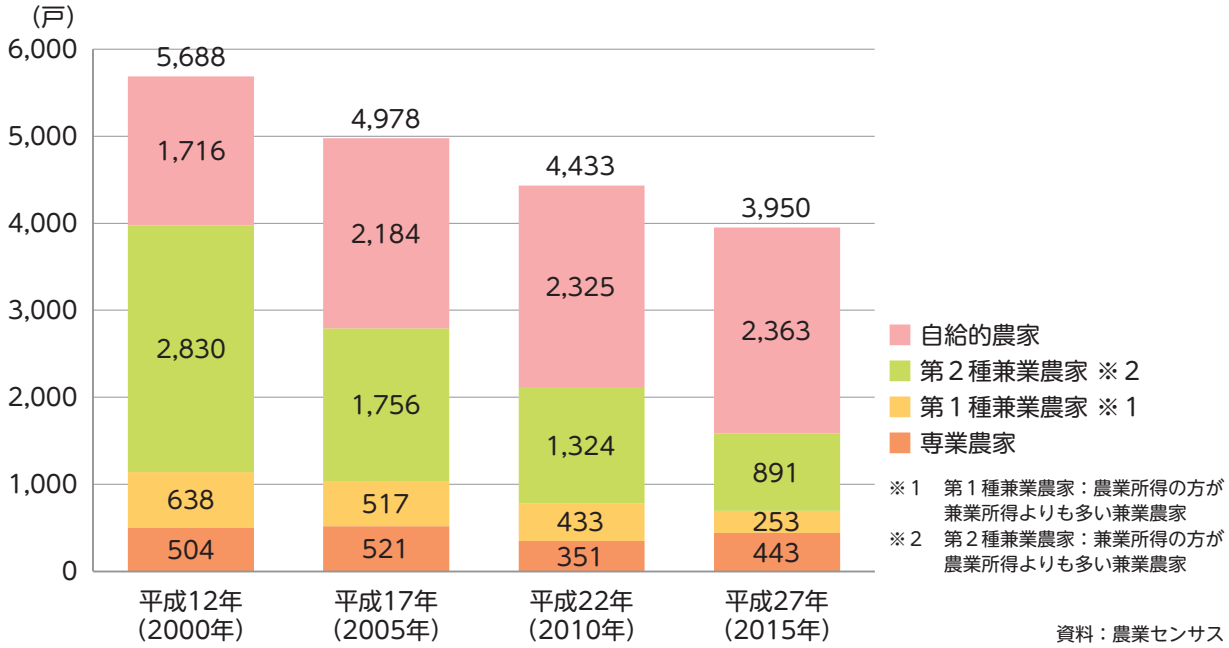


資料：国勢調査

(4) 農業の状況

農家戸数の推移についてみると、平成27年（2015年）では3,950戸となっており、平成12年（2000年）より1,738戸減少しています。農家種別でみると、第２種兼業農家が最も減少している状況となっています。

図表５　農家戸数の推移

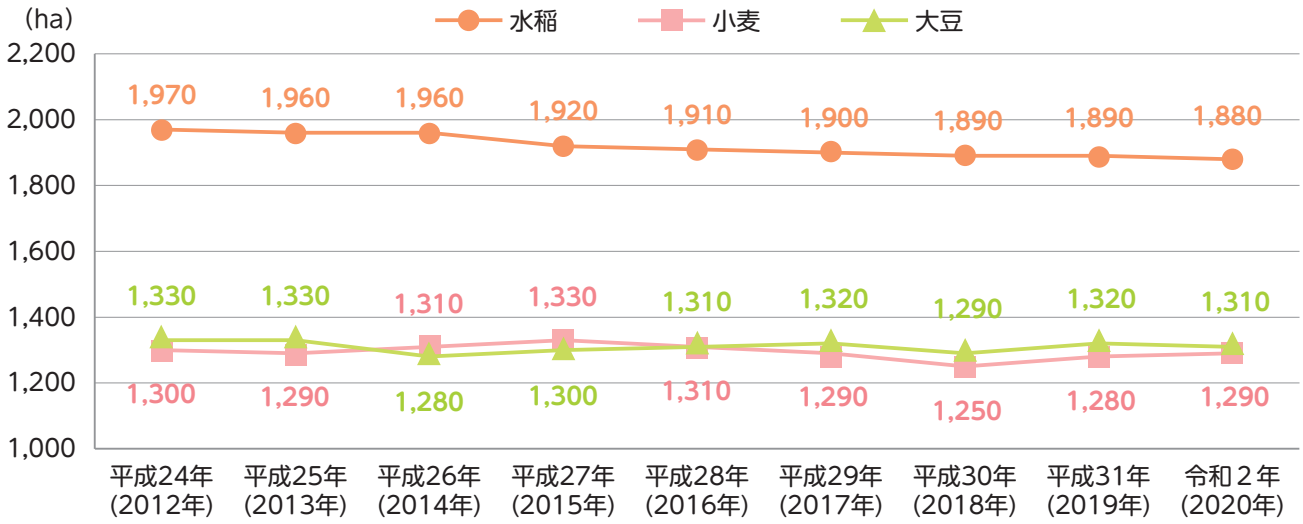


※１　第１種兼業農家：農業所得の方が兼業所得よりも多い兼業農家
※２　第２種兼業農家：兼業所得の方が農業所得よりも多い兼業農家

資料：農業センサス

作付面積の推移についてみると、水稲の作付面積はゆるやかに減少しており、小麦・大豆の作付面積は横ばいの状況となっています。

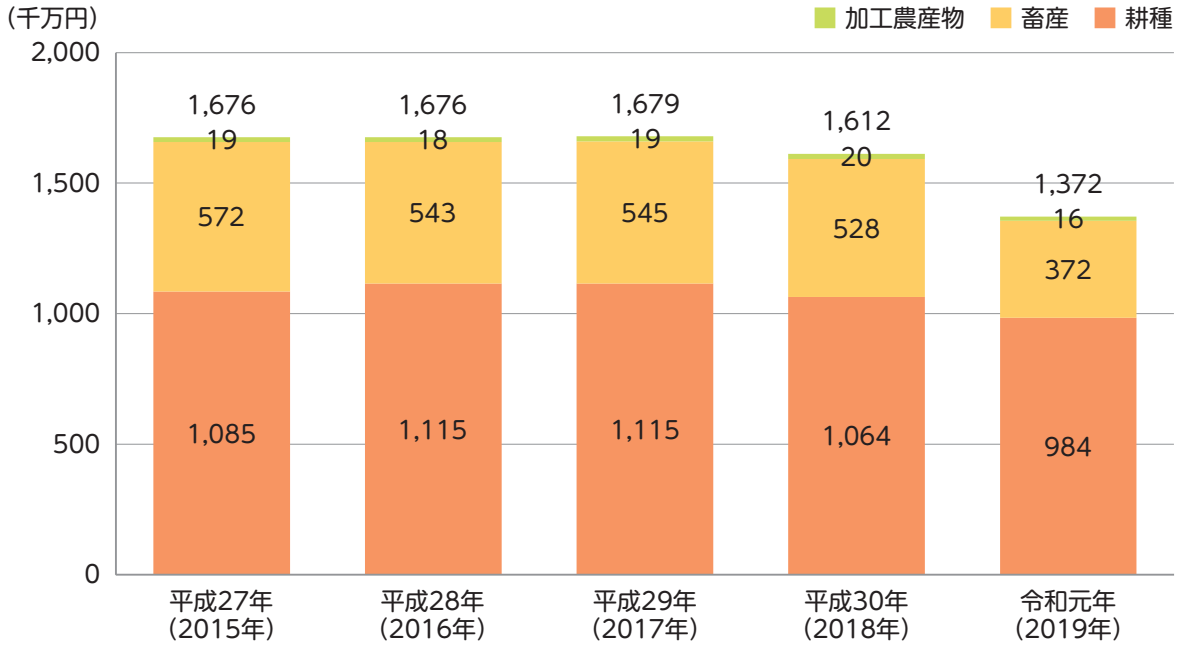
図表６　作付面積の推移



資料：東海農林推進統計年報

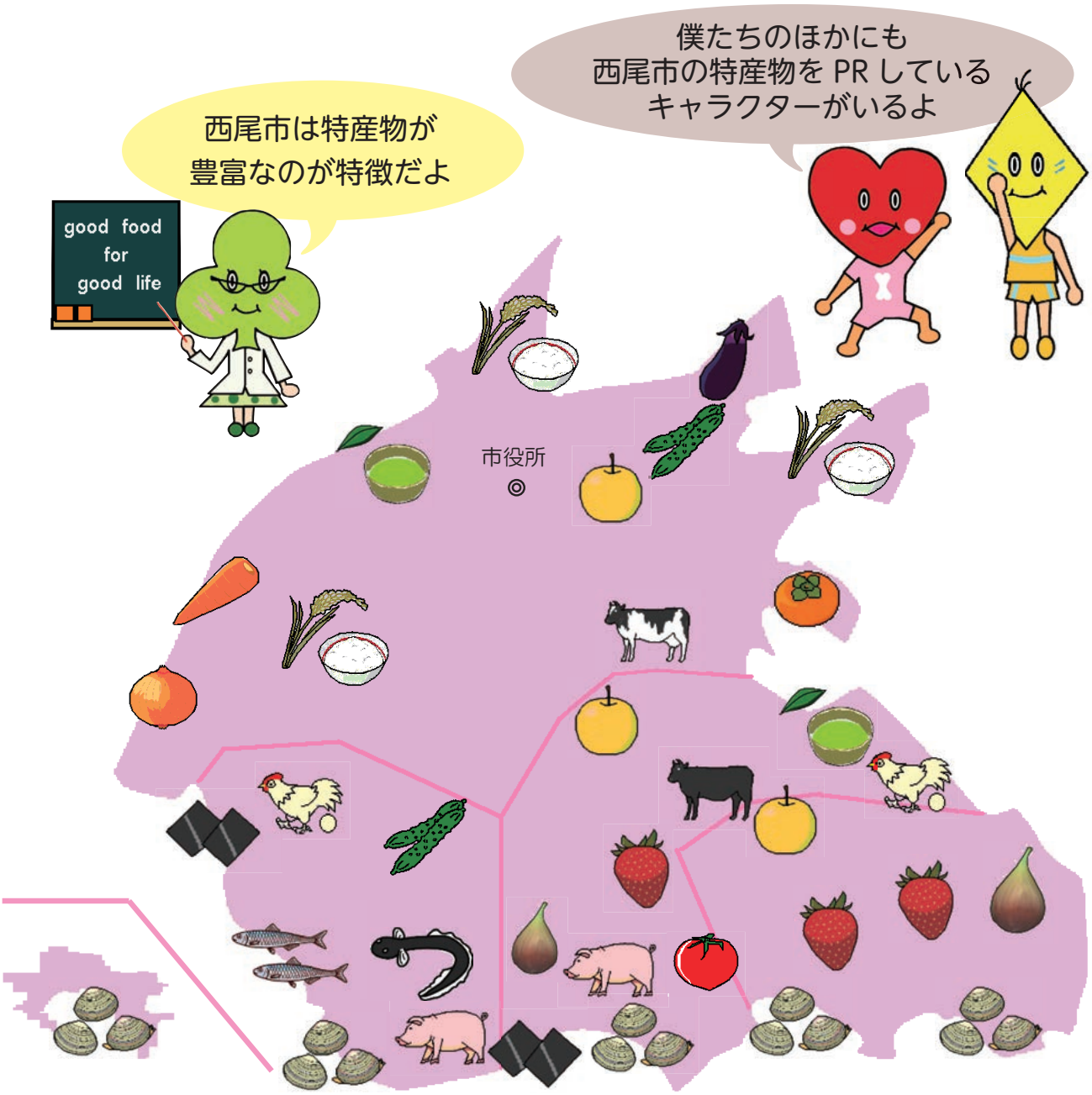
農業産出額の推移についてみると、令和元年（2019年）は台風による大きな農産物被害が発生したこともあり、137億２千万円と低くなっており、平成27年（2015年）より30億４千万円減少しています。

図表７　農業産出額の推移



資料：市町村別農業産出額（推計）

西尾市特産物マップ



●まーちゃ

西尾市観光協会のキャラクター。特産品の抹茶をはじめ西尾市を PR しているよ。

●まんてん君

一色うなぎ漁業協同組合のキャラクター。「まん」は「鰻」、「てん」は「天にものぼるうなぎのぼり」からきているよ。

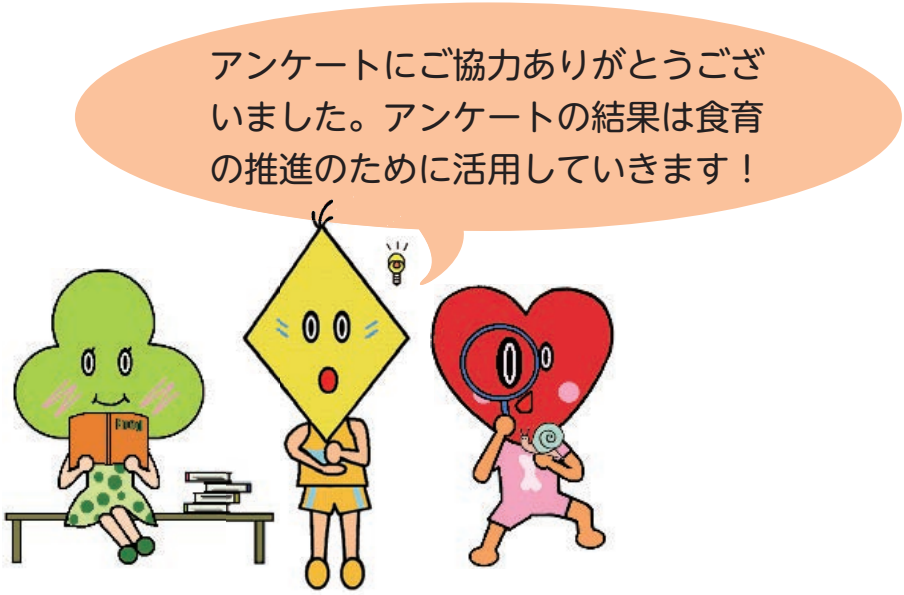
2　アンケート調査からみる食育の現状

(1) 食生活等に関するアンケートの実施概要

「第３次西尾市食育推進計画」では、食育推進の達成状況を評価するために、いくつかの評価指標を掲げ食育の取組みをしてきました。評価指標に対する達成状況と、西尾市の食育の現状と課題を把握するため、18歳以上の市民及び小中学生を対象に「食生活等に関するアンケート調査」を実施しました。

	一般市民アンケート調査	小中学生アンケート調査
調査対象	市内在住の18歳以上の男女	市内在住の小学３・５年、中学２年の男女
調査方法	郵送・WEB 併用調査	学校を通じた調査
調査時期	令和３年７月	令和３年９月
標 本 数	3,000	－
回 収 数	1,385（回収率46.2%）	1,461

一般アンケート調査の回収率は46.2%と、前計画策定の際に行われた一般市民アンケート調査（平成28年８月）の回収率43.5%よりも少し高くなっていますが、市民の50%の回答がないということは、まだまだ食育に関心がない市民が多いということであり、今後の重点課題になっていくと考えられます。



(2) 食生活等に関するアンケート結果からみる前計画の達成状況

「第３次西尾市食育推進計画」の達成状況を、食生活等に関するアンケート調査結果等をふまえて整理します。

○指標　ステップ１（知ろう　学ぼう　食育！）

指　　標	対　象	当初値(H28)	目標値(R3)	現状値(R3)	評価
食育に関心のある人の割合の増加	18歳以上	63.1%	90%	60.1%	△
地産地消という言葉を知っている人の増加※	小中学生	38.1%	70%	41.7%	○
	18歳以上	83.9%	90%	84.7%	○
「食育プログラム」を知っている人の割合の増加	全市民	4.6%	30%	6.4%	○
ほとんど毎日朝食を食べる人の増加	小中学生	87.9%	100%	83.6%	△
	30歳未満男性	69.4%	85%	63.3%	△
	30歳代男性	67.4%	90%	56.8%	△
食事バランスガイドを参考に食生活を送っている人の増加	18歳以上	53.2%	65%	63.6%	○
学校で習ったことで食生活を変えたことがある子の増加	小中学生	11.3%	15%	14.9%	○
「西尾市食育キャラクター」を知っている人の増加	全市民	9.4%	70%	11.7%	○

○指標　ステップ２（やってみよう　食育！）

指　　標	対　象	当初値(H28)	目標値(R3)	現状値(R3)	評価
毎日の食事が楽しいと思う人の増加	小中学生	81.4%	85%	75.2%	△
	18歳以上	64.8%	80%	66.2%	○
学校で習ったことを家族で話し合う子の増加	小中学生	33.3%	40%	30.5%	△
ひとりで朝食を食べる子の減少	小学生	19.4%	5%	16.6%	○
	中学生	50.1%	25%	43.1%	○
食育に関する行動や活動をする人の増加	18歳以上	32.7%	40%	39.2%	○
学校給食における西尾市産物を利用する割合の増加	小中学校	12.3%	30%	9.8%	△

○指標　ステップ３（みんなで参加しよう　食育！）

指　　標	対　象	当初値(H28)	目標値(R3)	現状値(R3)	評価
農林漁業体験に全学年で取り組む小学校の割合の増加	小学生	69.2%	100%	50%	△

※地産地消という言葉を知っている人の増加について小学３年生は含まない
※評価の基準　◎：目標値達成　○：当初値以上　△：当初値未満

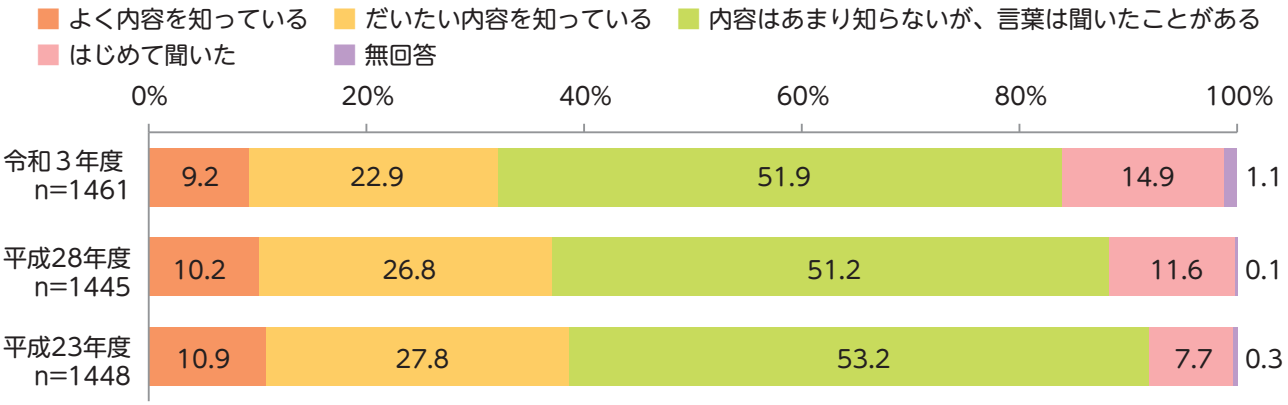
(3) 評価と課題

食育の関心

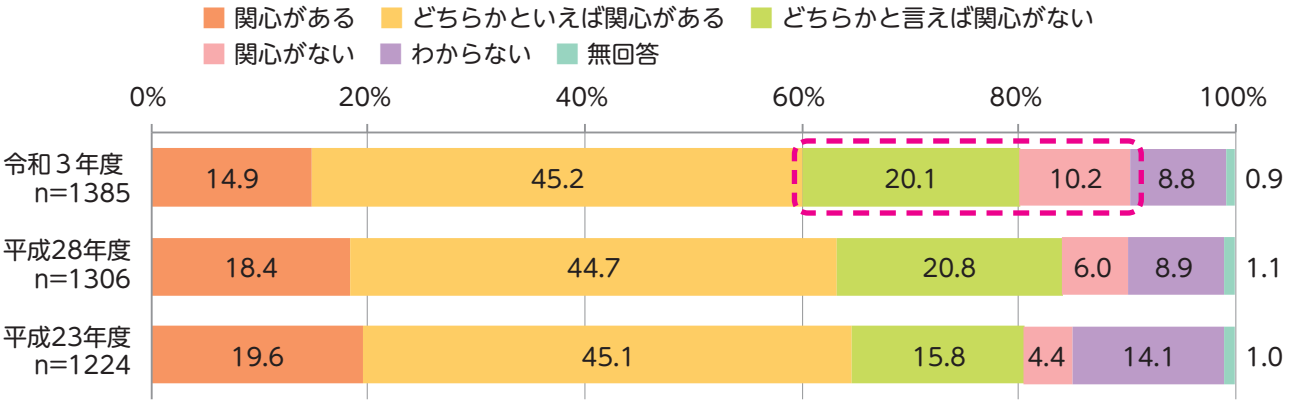
食育の関心について

「食育」という言葉を知っている小中学生の割合は、８割以上となっていますが、18歳以上では食育について３割が“関心がない”（「関心がない」＋「どちらかといえば関心がない」）と回答しており、認知はしていても関心が低い状況にあります。そのため、子どもの頃からの食育をすすめ、関心を持つ人を増やす必要があります。また、性別でみると食育に“関心がある”と答えた方は女性が66.6％、男性が48.7％となっており、男女で意識の差がみられます。性別による意識の差がみられる要因の一つに、男性は食事づくりにかかわる機会が少ないことがあげられます。そのため、今後は男性が積極的に食育にかかわっていけるような取組みが重要です。

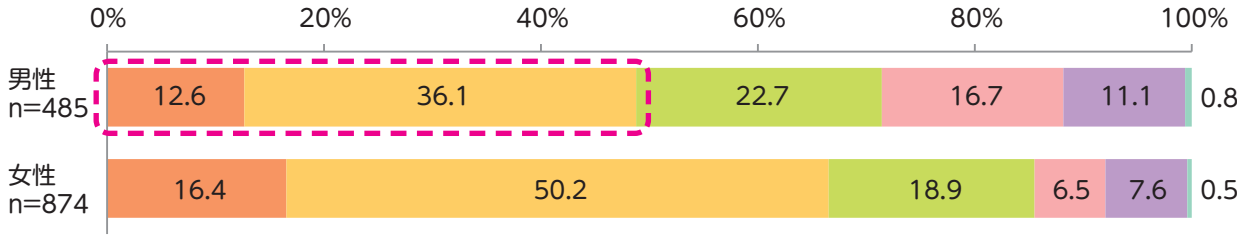
「食育」の認知度（小中学生）



「食育」についての関心（18歳以上）



性別×「食育」についての関心（18歳以上）

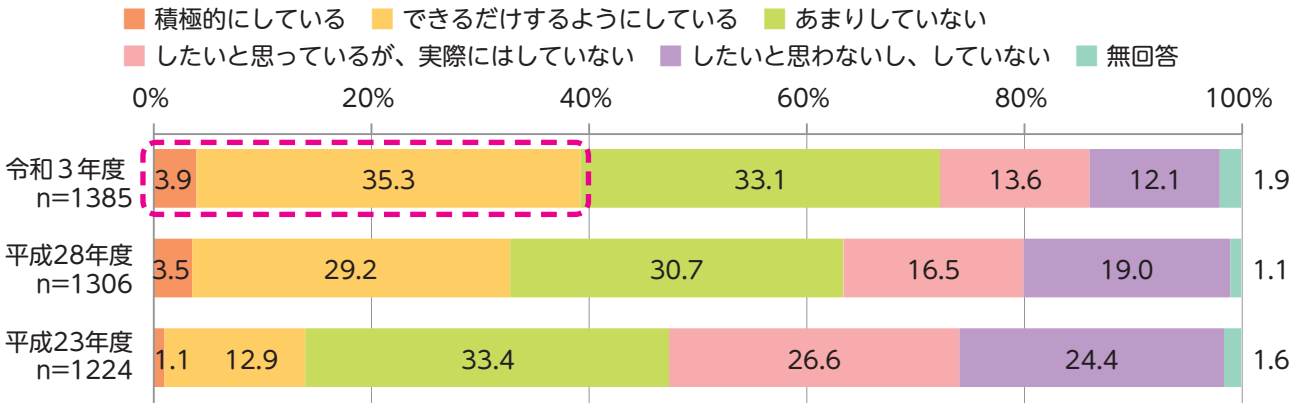


食育の実践

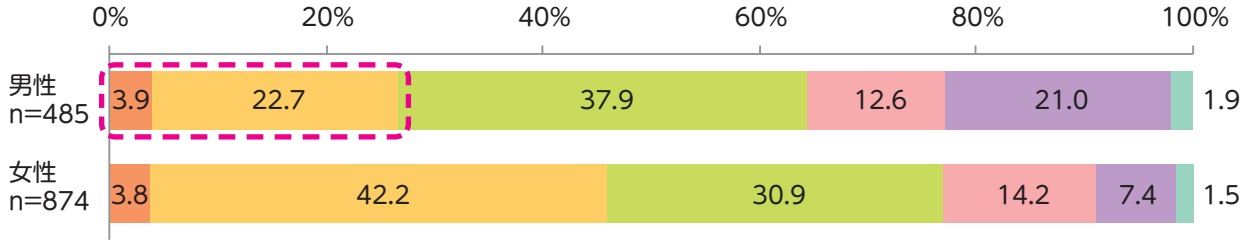
食育の実践状況について

アンケート調査結果によると、「食育」に関する何らかの日常的な行動や地域での活動をしている18歳以上の割合は、“実践している”（「積極的にしている」＋「できるだけするようにしている」）と回答した人が39.2％と前回調査よりも6.5ポイント増加しており、年々増加傾向がみられるため、食育の認識だけではなく、日常生活に定着しつつある状況がうかがえます。一方で、性別でみると“実践している”と答えた方は、女性が46.0％、男性が26.6％となっており、食育の関心と同様に、男女で意識の差がみられます。性別やライフステージ等に応じて、適切な食事を摂るための栄養バランスのとれた食事を作るスキルや選ぶことができる知識の啓発が必要です。

「食育」に関する日常的な行動や地域での活動について（18歳以上）



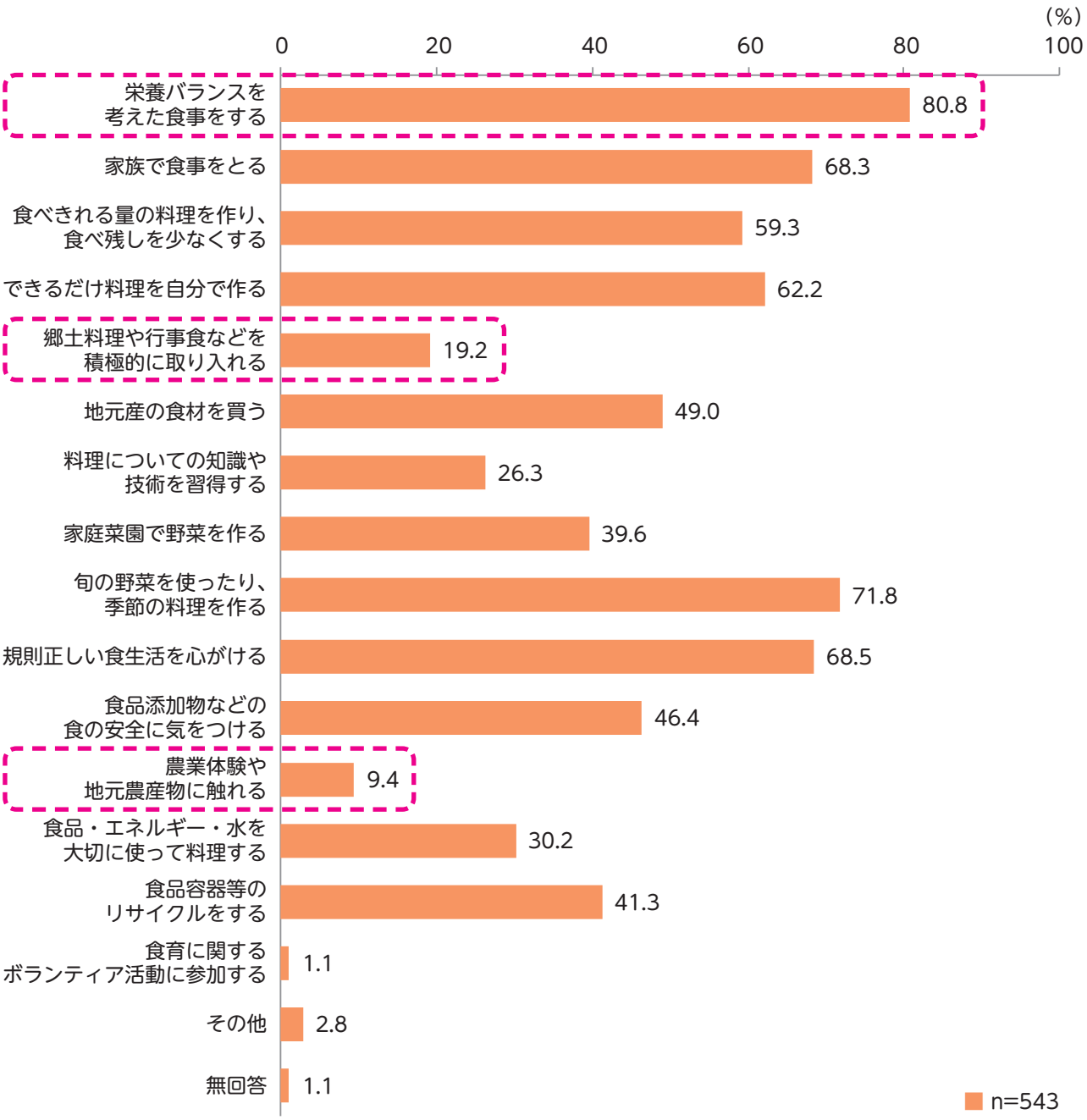
性別×「食育」に関する日常的な行動や地域での活動について（18歳以上）



食育の実践内容について

アンケート調査結果によると、「食育」を実践している人の具体的な実践内容は「栄養バランスを考えた食事をする」が80.8%で最も高く、次いで「旬の野菜を使ったり、季節の料理を作る」が71.8%、「規則正しい食生活を心がける」が68.5%となっています。一方で、「郷土料理や行事食などを積極的に取り入れる」が19.2%、「農業体験や地元農産物に触れる」が9.4%となっています。

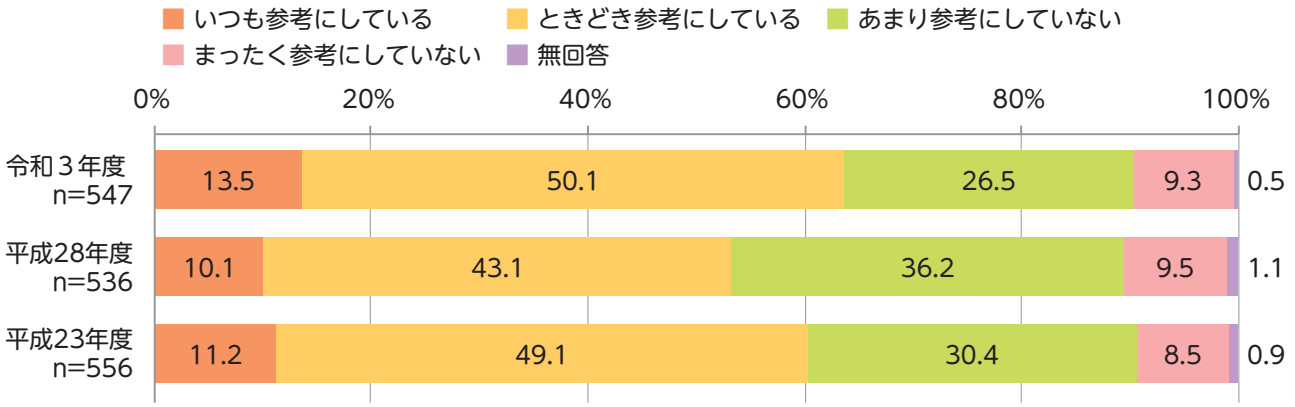
食育の実践内容（全市民・実践している人）



① 栄養バランスについて

「食事バランスガイド」を知っている人の中で、活用している割合は６割以上と前回調査よりも増加していますが、栄養バランスを考えた食事をしている人の割合について18歳以上でみると、「栄養バランスを考えた食事をしている人」が31.7%、「栄養バランスを考えた食事をしていない人」が68.3%となっており、多くの方が栄養バランスを考えた食事を摂れていない状況があります。性別やライフステージ等に応じて、栄養バランスのとれた食事を選択することができる知識の啓発が必要です。

「食事バランスガイド」を参考にしているか（18歳以上）



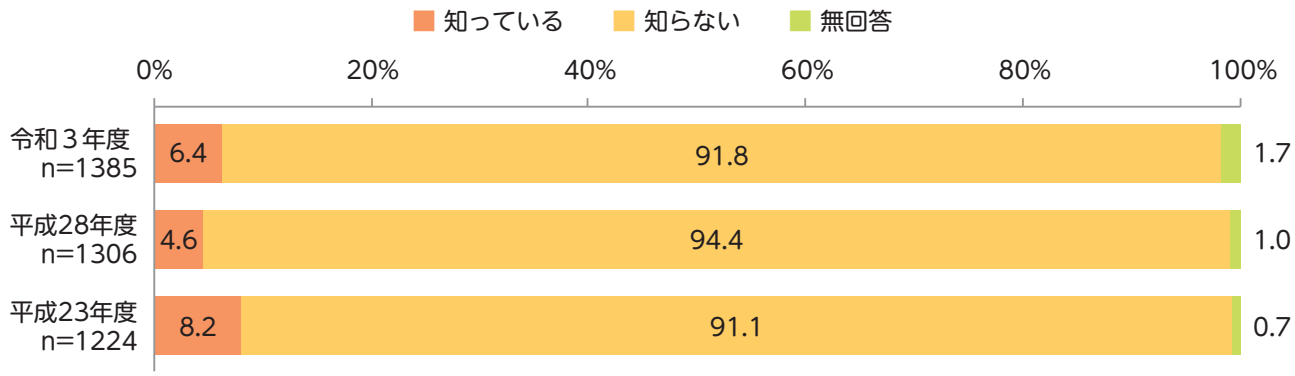
栄養バランスを考えた食事をしている人の割合（18歳以上）

対　象	対　象	栄養バランスを考えた食事をしている人	栄養バランスを考えた食事をしていない人
18歳以上	n ＝1,385	31.7%	68.3%

② 食育プログラムについて

食育の学習支援の重点事業として平成21年度に作成した「西尾版食育プログラム」の普及を進めていますが、認知度は低く、前回調査よりもわずかに割合は増加しましたが、市民への浸透は進んでいない状況です。「西尾版食育プログラム」を今後も普及していくことで、規則正しい食習慣の実践やバランスのとれた食生活を身に付けるための情報提供を行います。

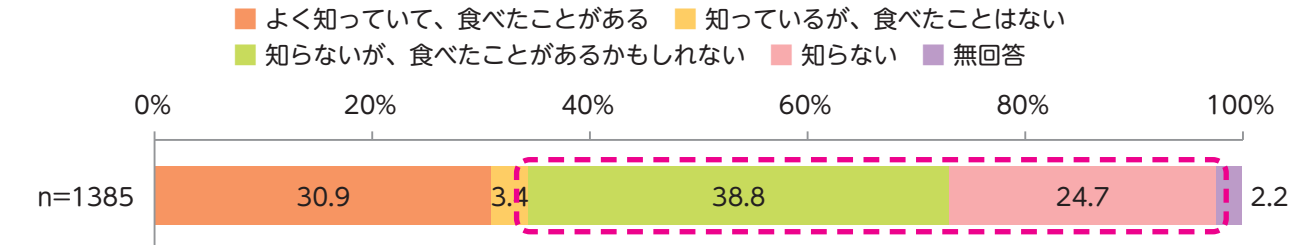
「西尾版食育プログラム」の認知度（18歳以上）



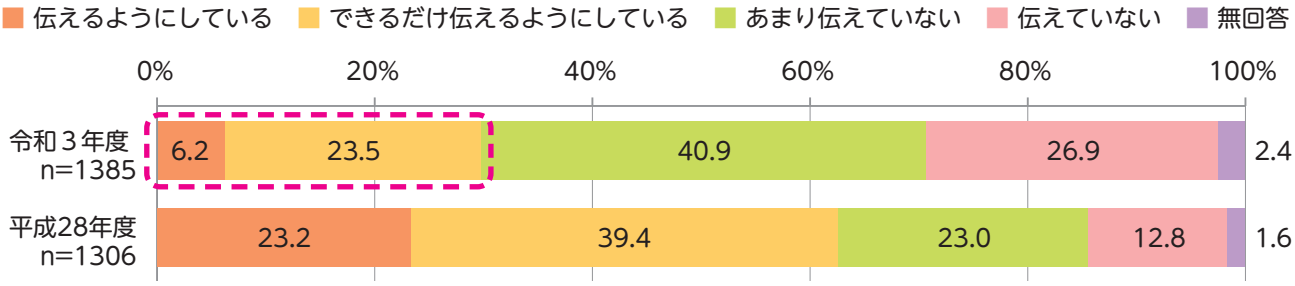
③ 伝統食・郷土料理について

アンケート調査結果によると、西尾市の伝統食や郷土料理について、“知らない”（「知らないが、食べたことがあるかもしれない」＋「知らない」）が63.5％となっています。また、伝統食や郷土料理について、“伝えている”（「伝えるようにしている」＋「できるだけ伝えるようにしている」）の割合が前回調査結果（平成28年度）の62.6％から29.7％と大幅に減少しており、地域や家庭の料理を次世代に伝承するために、気軽に参加できるような料理教室やレシピの公開などに取り組む必要があります。食文化の伝承は、高齢者の生活習慣や食習慣という知恵を重要な財産として、地域で受け継いでいくことが大切です。

西尾市の伝統食や郷土料理の認知（18歳以上）



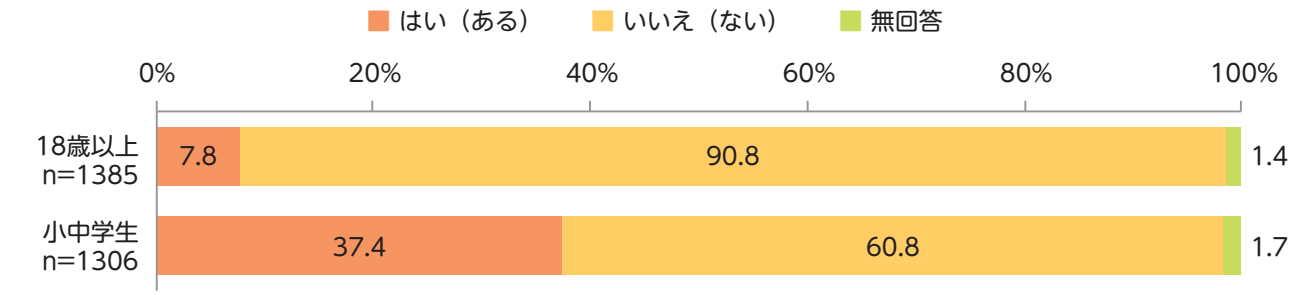
地域や家庭で伝えられてきた料理を次の世代に伝えるようにしているか（18歳以上）



④ 食の体験機会について

小中学生では農林漁業体験経験がある割合が約４割、一方、18歳以上では１割にも満たない割合となっています。小中学校での実施や事業によっては参加者が少ないなどの課題もありますが、市民のニーズも踏まえた様々な体験機会の充実が求められます。

農林漁業体験経験の有無

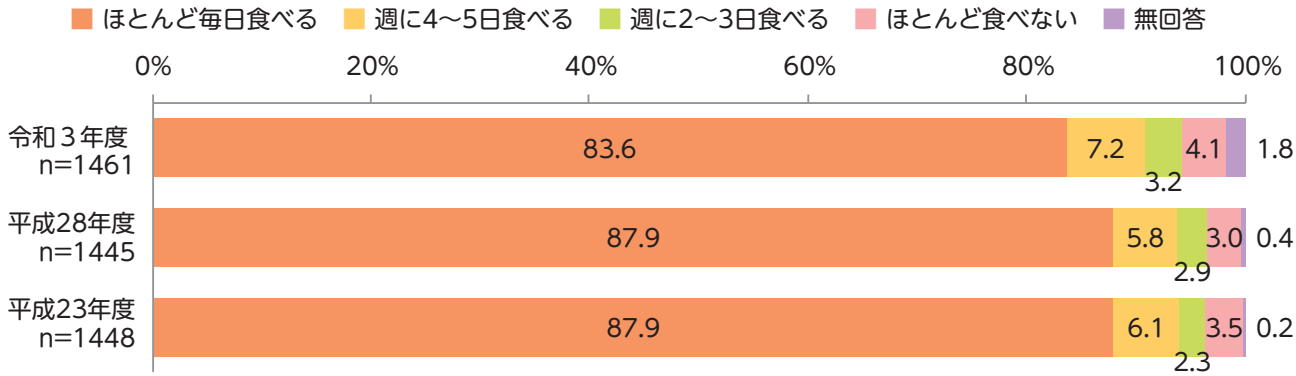


朝食の摂取状況と欠食の理由について

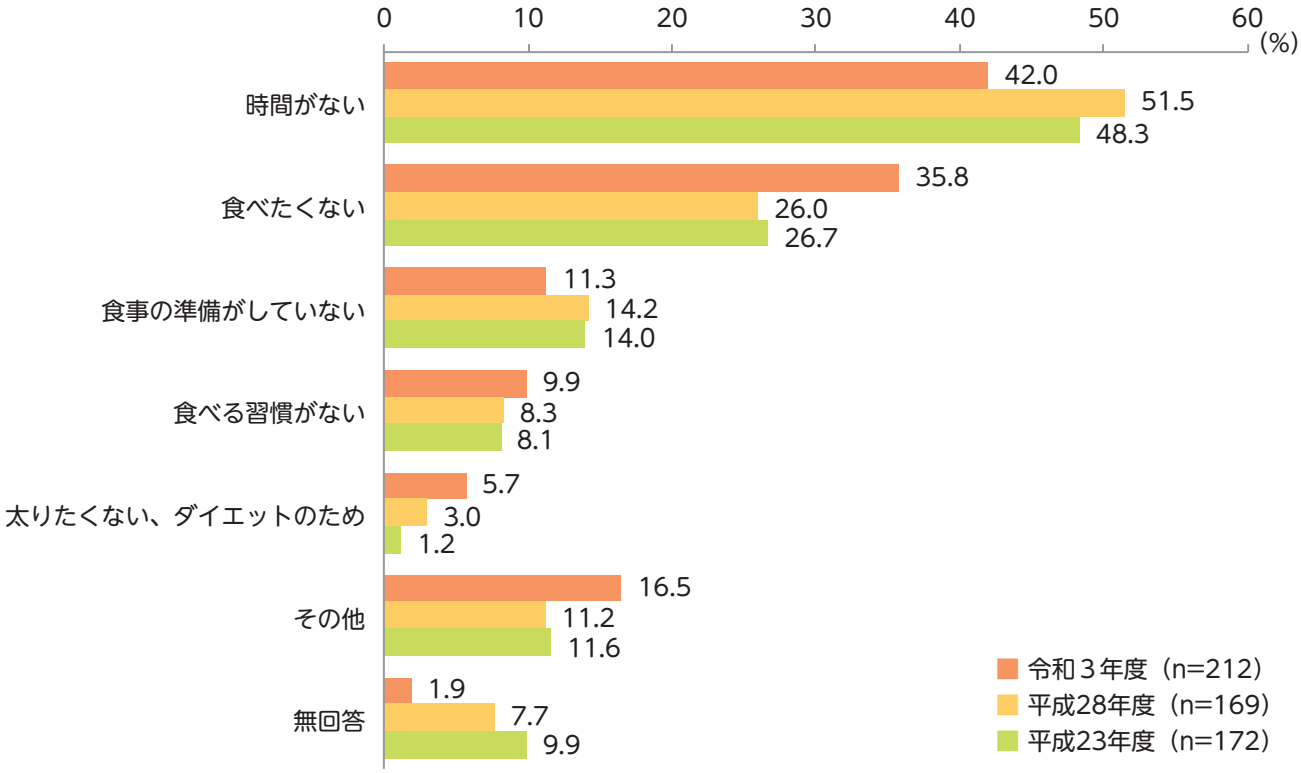
朝食の摂取状況について

朝食の摂取状況をみると、小中学生の８割以上が毎日食べていますが、前回調査よりも減少しており、欠食理由も「食べたくない」という理由が前回調査よりも増加しています。18歳以上では、若い人ほど朝食の欠食が目立ち、特に男女ともに20歳代、男性の30歳代で朝食を毎日食べていない割合が３割以上と高くなっています。朝食を食べない理由として「食欲がわかない」、「時間がなくて食べられない」という傾向がみられます。朝食の大切さや望ましい生活リズム、栄養バランスについての正しい知識を持って、自分の食生活を自分で管理できるよう、食に関する正しい情報を提供し、望ましい食習慣の実践と定着につながるよう支援することが必要です。

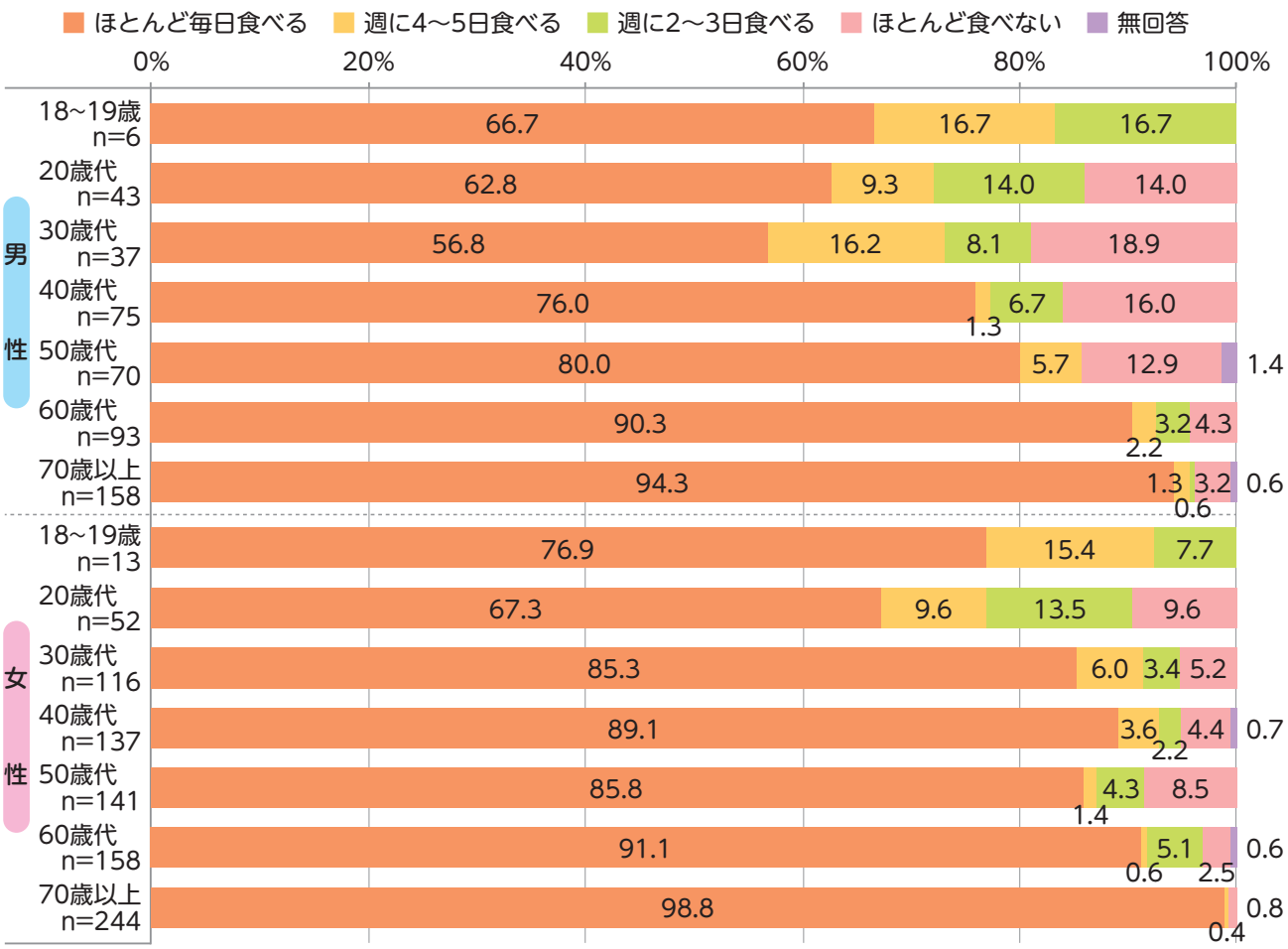
朝食の摂取状況について（小中学生）



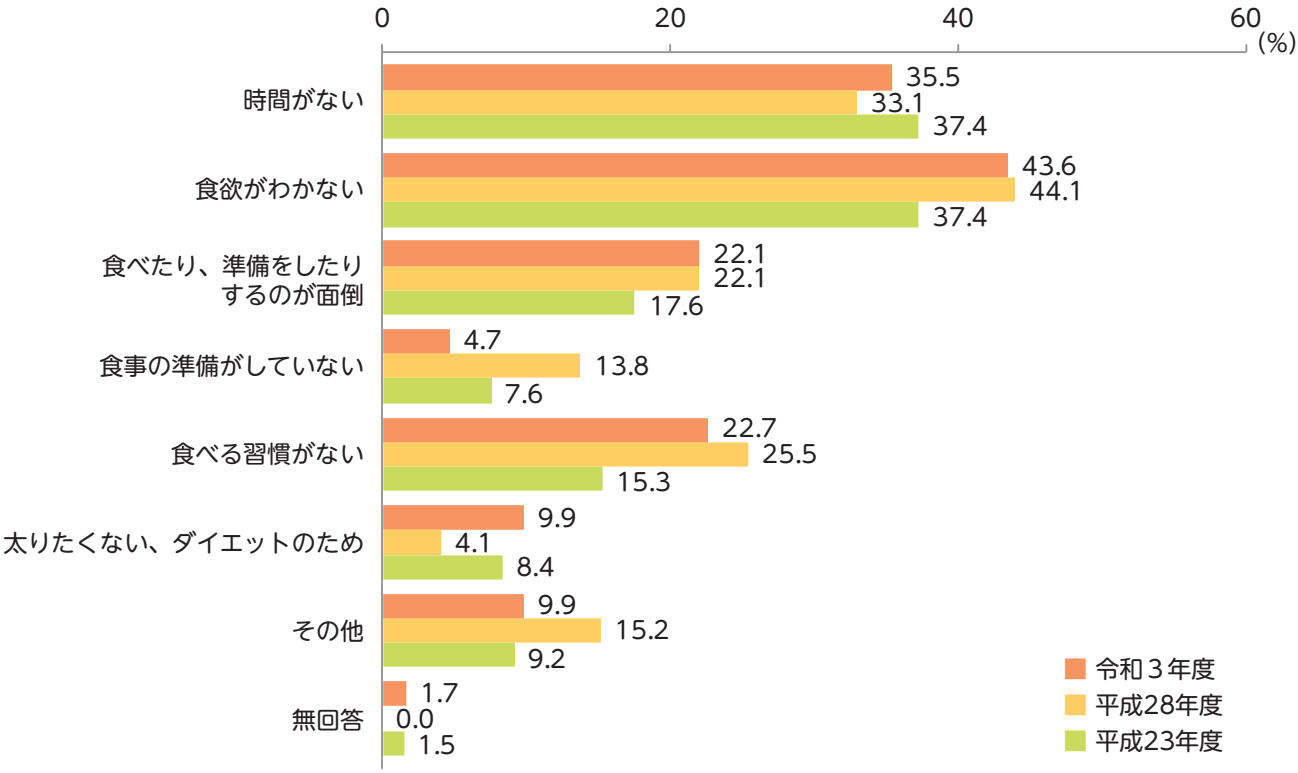
朝食の欠食理由（小中学生）



朝食の摂取状況について（18歳以上）



朝食の欠食理由（18歳以上）



食を通じたコミュニケーション

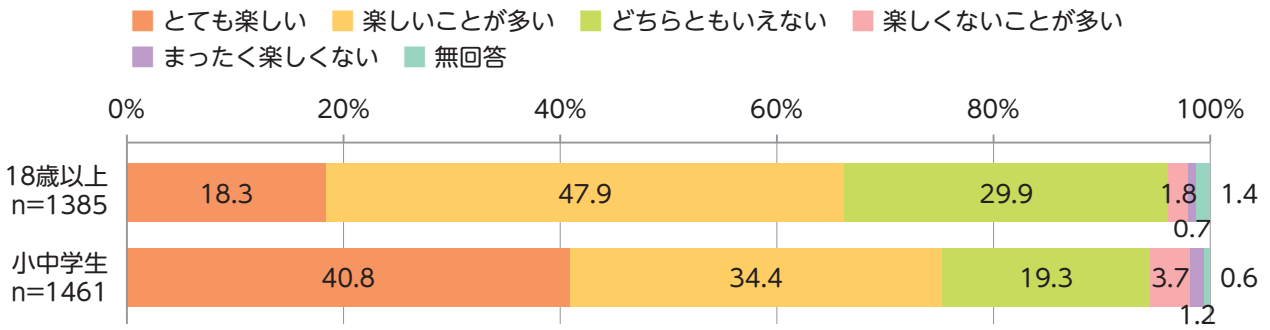
共食について

毎日の食事が楽しいと思う人の割合は、“楽しい”（「とても楽しい」＋「楽しいことが多い」）が18歳以上で66.2%、小中学生で75.2%となっています。

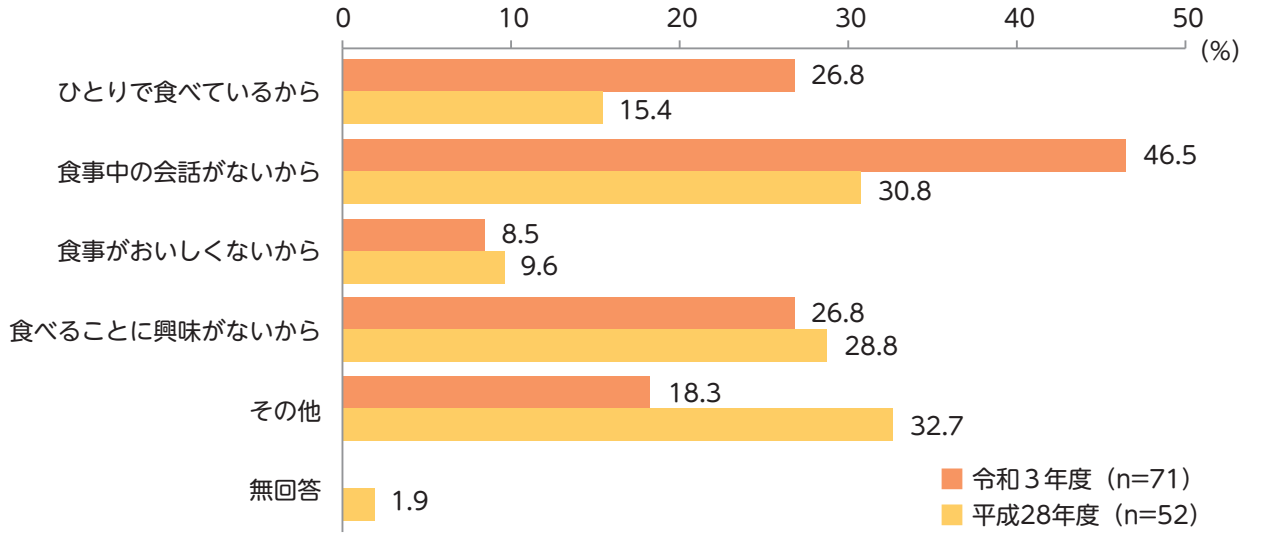
ひとりで朝食を食べる子の割合は、学年が上がるにつれ高く、中学２年生で４割以上となっており、前回調査より小学生、中学生ともに割合は減少しています。また、毎日の食事が楽しくない理由として「食事中の会話がないから」、「ひとりで食べているから」が前回調査よりも10ポイント以上増加しています。18歳以上でもひとりで食事する人が１割～２割程度と年齢が上がるにつれ割合が高くなっています。

家族や友人等と一緒に食事をしながらコミュニケーションを持つことにより、食の楽しさを実感し、だれかと一緒に食事をとる機会を増やすことで、コミュニケーションを深め、食事の楽しさを感じることができる生活を実現していく必要があります。

毎日食事が楽しいと思う人



毎日の食事が楽しくない理由（小中学生）

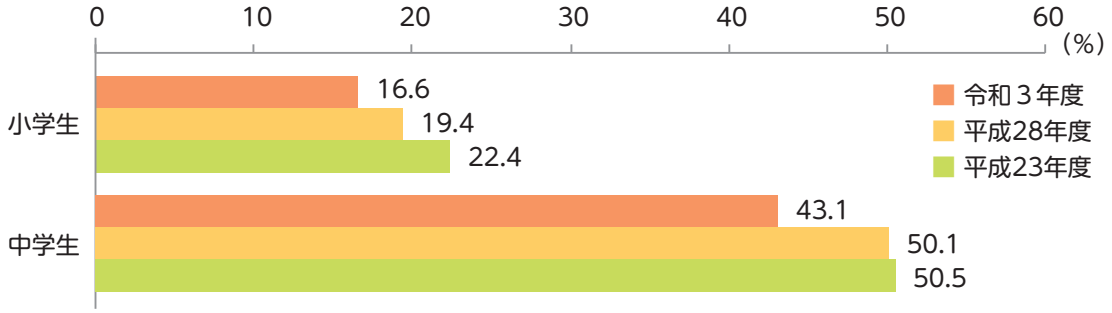


朝食を誰と食べるか（小中学生）

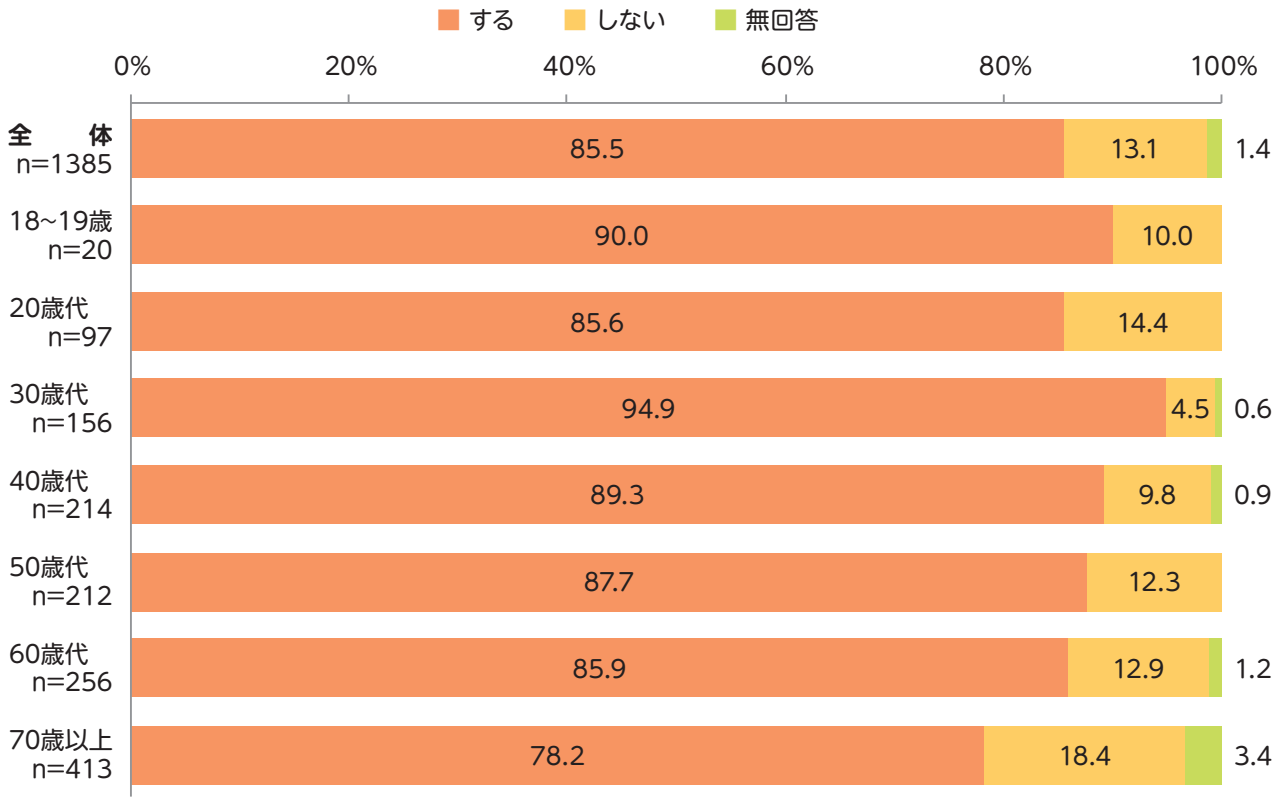
単位：％

	回答数	ひとりで	お父さん	お母さん	兄弟姉妹	おじいさん おばあさん	その他	無回答
小学３年生	424	12.0	36.3	53.8	68.9	6.8	3.8	4.2
小学５年生	463	20.7	31.3	47.9	68.3	6.9	2.8	1.7
中学２年生	462	43.1	22.7	36.4	51.9	3.5	1.7	1.9

ひとりで朝食を食べる子の割合（小中学生）



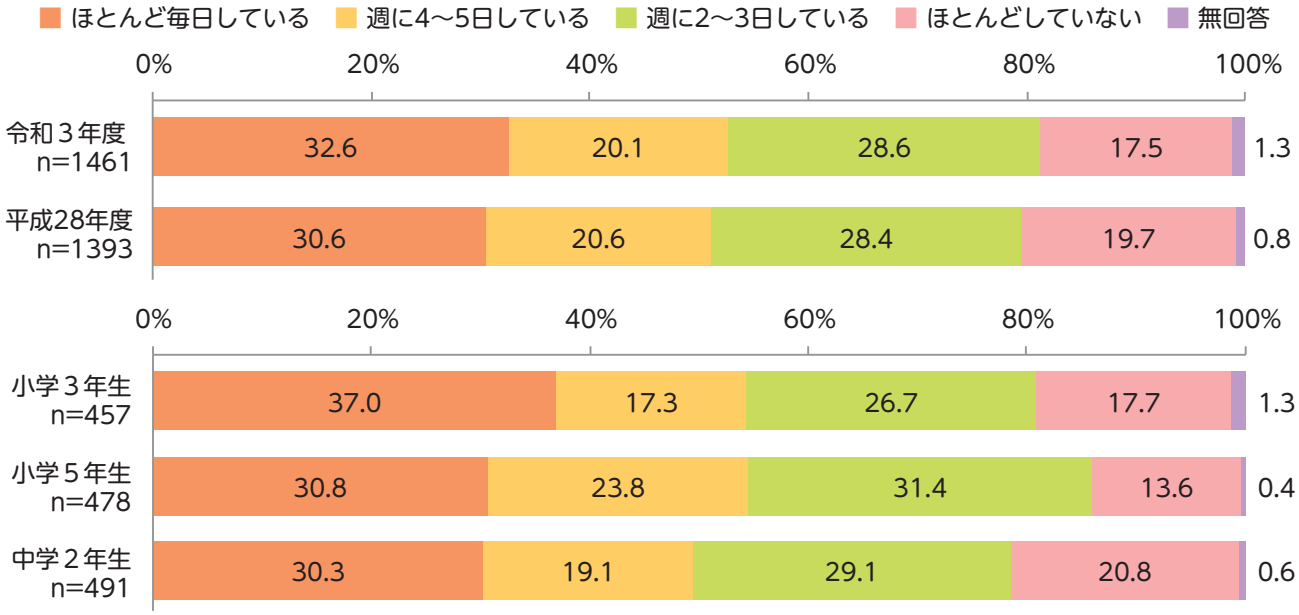
１日１回は、家族や友人などと一緒に食事する割合（18歳以上）



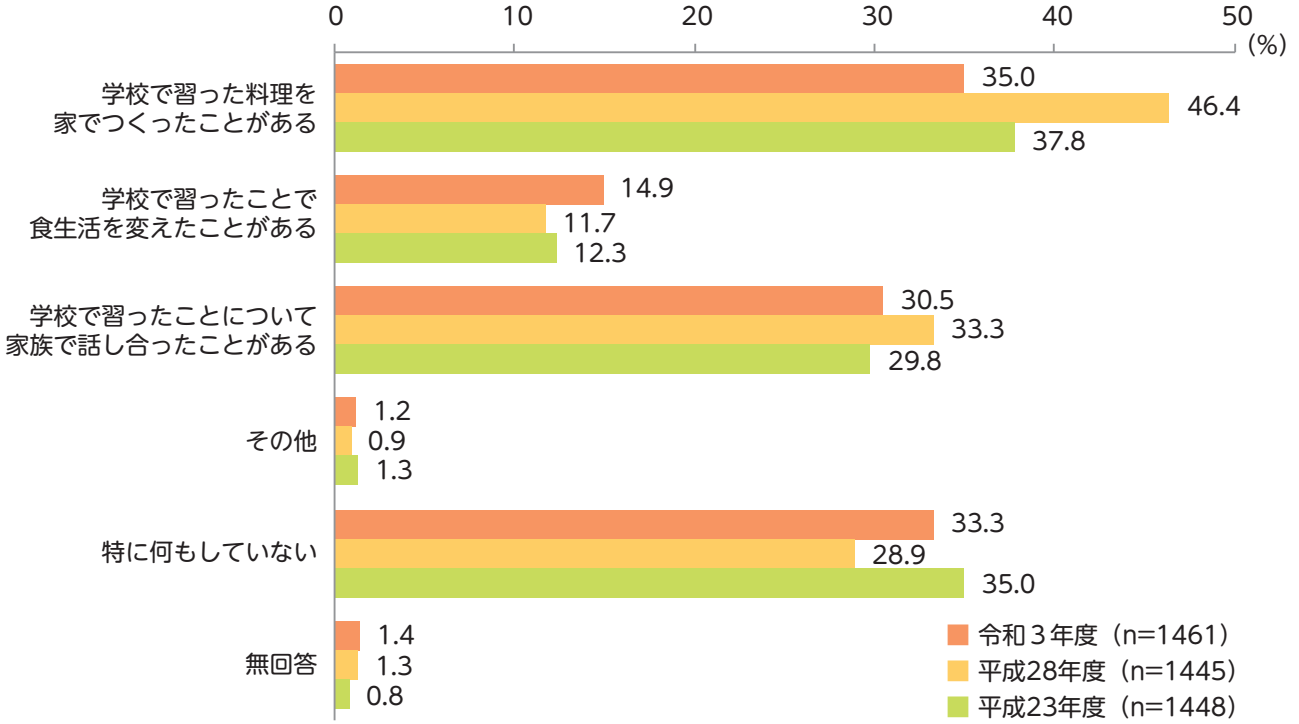
子どもの食育の実践

家庭の状況では、小中学生で料理や食事の手伝いをしない子は約２割で、学年が上がるにつれ手伝いをする頻度が少なくなる傾向にあります。学校で習った料理を家でつくったことがある子や、学校で習ったことについて家族で話し合ったことがある子の割合は減少しており、学校で習ったことを食生活に活かしていない子どもが増加しています。また、食に関わることについて、子ども、孫などと『一緒に食事』をし、『食について話す』ことや、『食に関する作法を教える』ことは、全体のおよそ半数前後の割合で行っているものの、『一緒に食事づくり』をしている割合は約２割にとどまっています。学校と家庭の両面から子どもの食育を推進し、食生活に興味が持てるような支援を検討する必要があります。

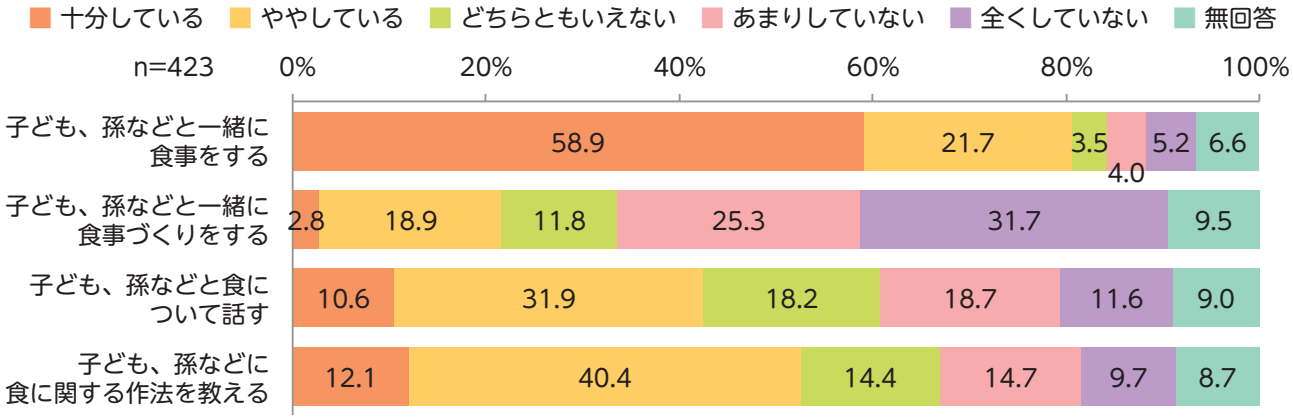
料理や食事の手伝いについて（小中学生）



学校で習ったことを食生活に活かしているか（小中学生）



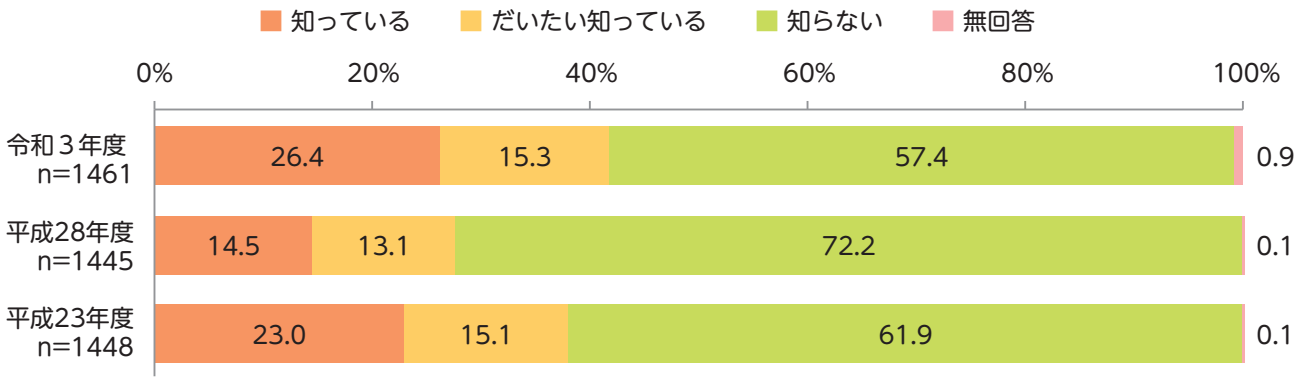
家庭における子ども、孫などとの食に関する関わりについて（18歳以上）



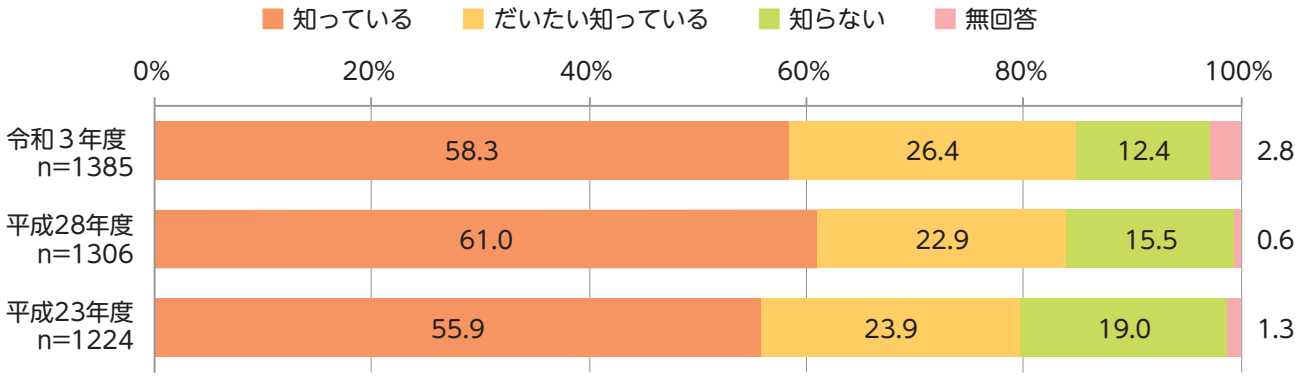
地産地消の促進

「地産地消」という言葉を「知っている」、「だいたい知っている」と回答した小中学生は、約４割で前回調査よりも１割以上増加しています。18歳以上では前回調査より「知らない」割合が減少し、「地産地消」が浸透してきている状況がうかがえます。しかし、西尾産の農林水産物の優先購入についてみると、「西尾産かどうか意識して購入していない」割合が多いことから、西尾産の農林水産物を優先的に購入してもらうために、『西尾産』を周知する手段や方法を検証していく必要があります。

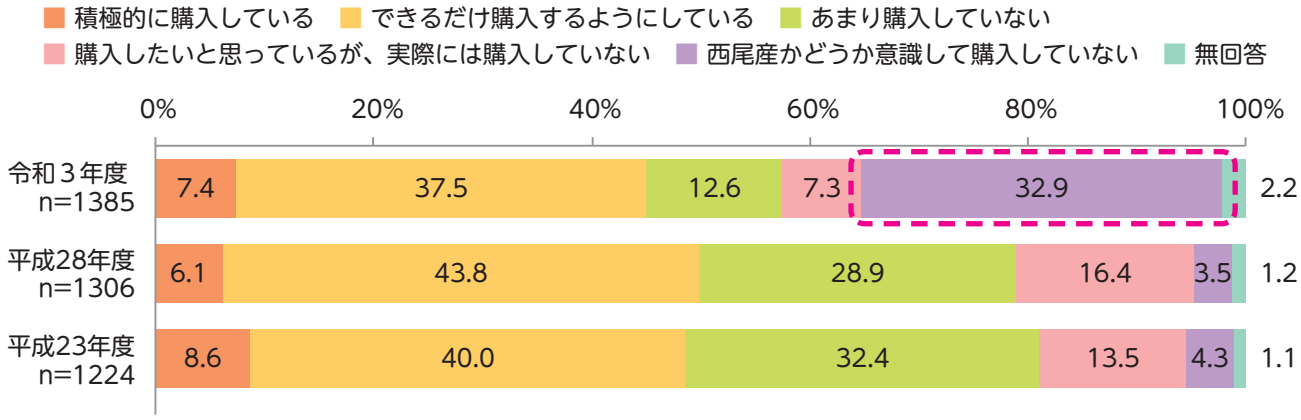
「地産地消」の認知度（小中学生）



「地産地消」の認知度（18歳以上）



西尾産の農林水産物の優先購入について（18歳以上）

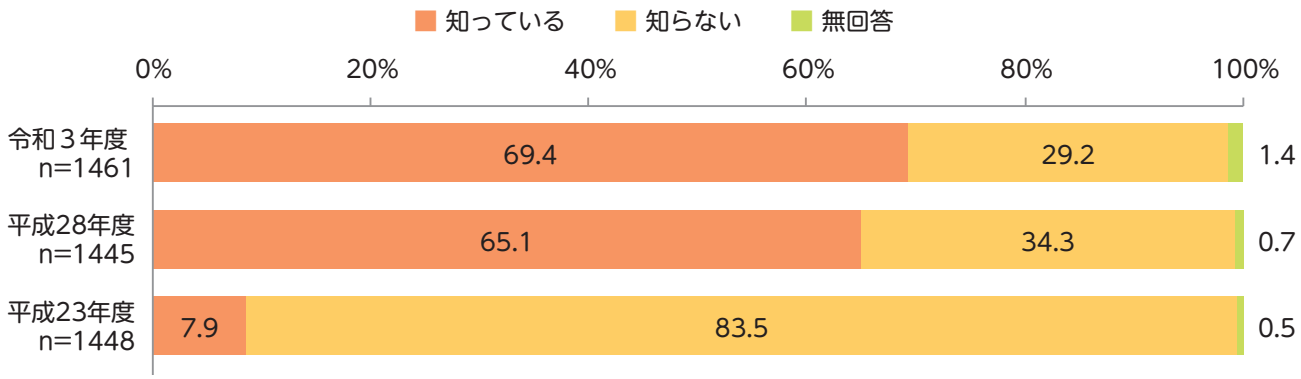


食育のイベント

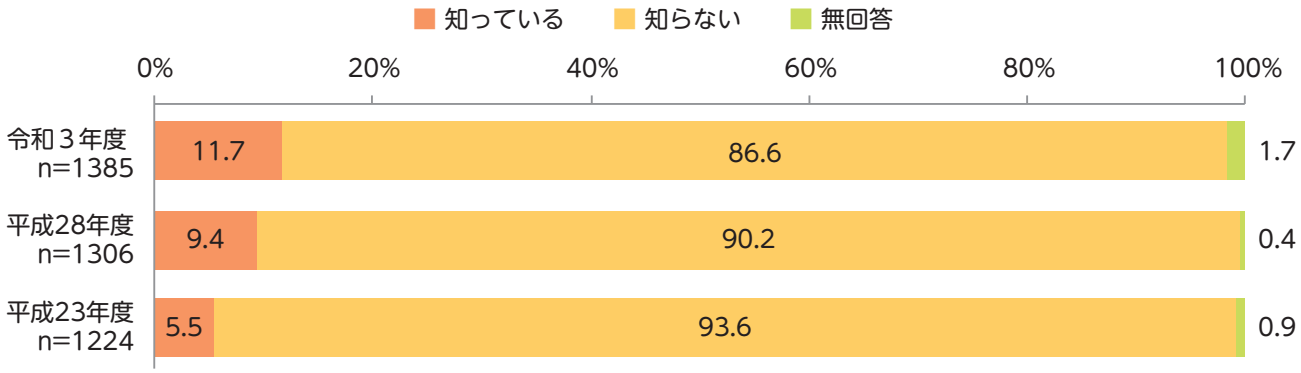
食育キャラクターの認知度

西尾市食育キャラクターの認知度は小中学生では７割近くとなっていますが、18歳以上では１割と少ない状況です。様々な食育の取組みを推進するうえで、楽しくわかりやすく食育が学べるように、関係課と連携して食育キャラクターの普及・啓発を推進していくことが必要です。

「西尾市食育キャラクター」の認知度（小中学生）



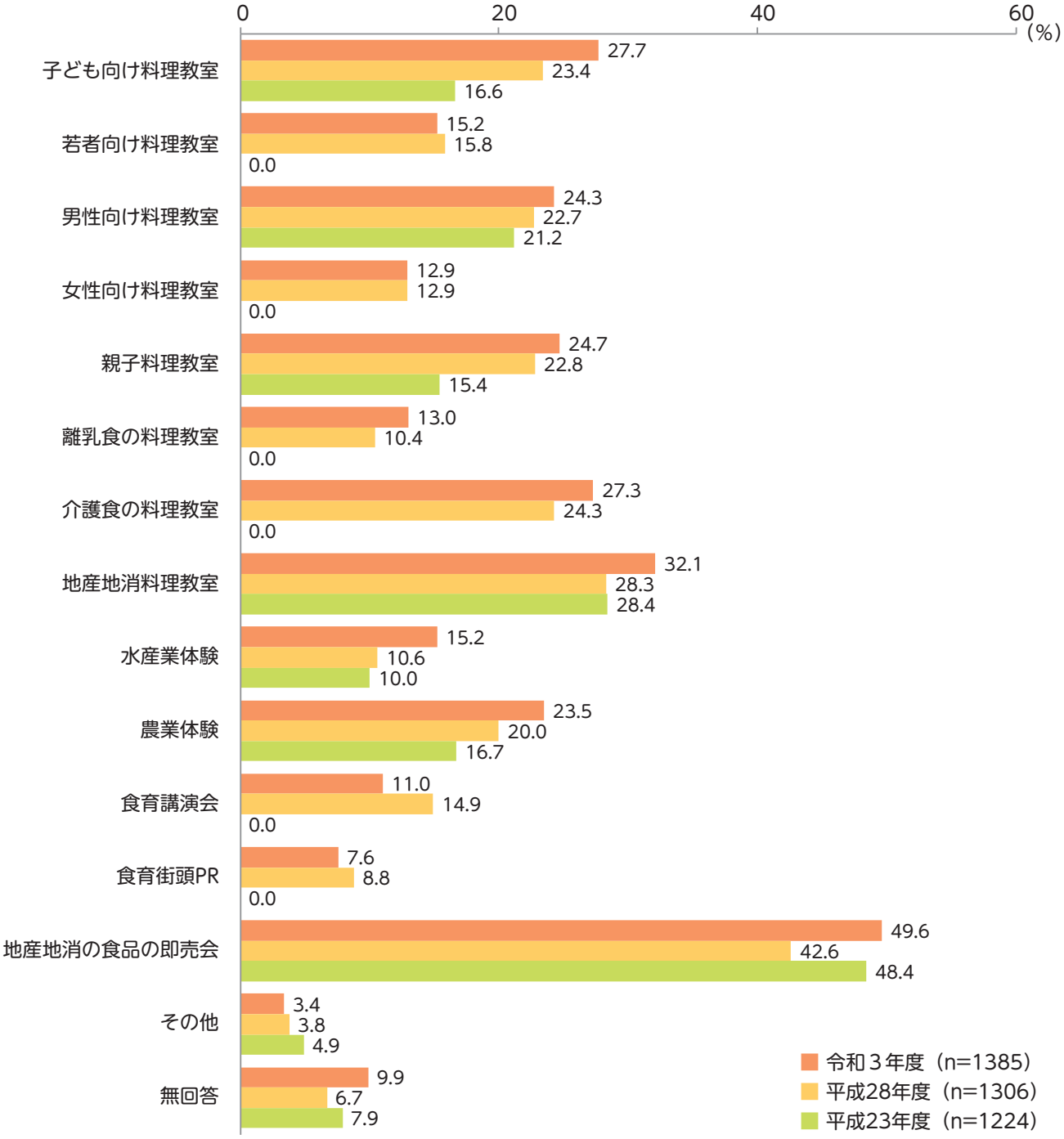
「西尾市食育キャラクター」の認知度（18歳以上）



望まれている「食育」に関する事業

「食育」に関するあったらよいと思う事業では「地産地消の食品の即売会」、「地産地消料理教室」、「子供向け料理教室」、「介護食の料理教室」などのニーズが高くなっています。市民ニーズに合った事業を計画していくことが必要です。

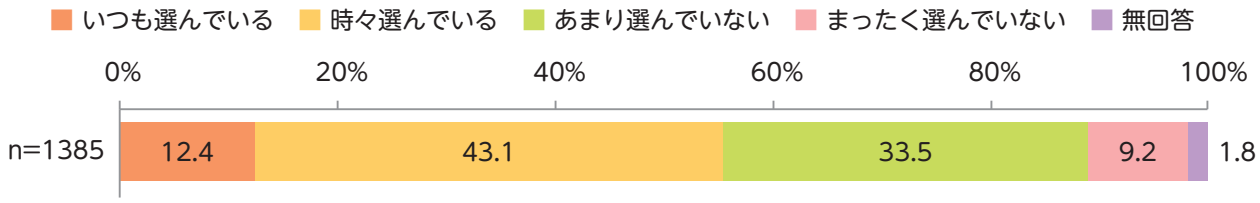
「食育」に関するあったらよいと思う事業（18歳以上）



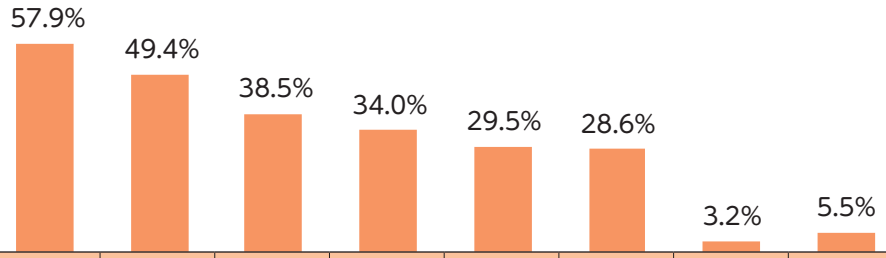
環境に配慮した食生活について

アンケート調査結果によると、日頃から環境に配慮した食材・食品の選択については５割以上の人が実践できていますが、約４割の方が実践できていない現状があるため、実践できるように意識を改善していく必要があります。また、食品ロスを少なくするために注意していることでは、「作りすぎないように注意している」、「食品の使い残しを防ぐため、必要以上に買い物しすぎないようにしている」と答えた方が多く、特に男性に比べて女性の方が、全般的に環境への配慮の意識が高くなっています。食べ物と環境のつながりを認識し、環境にやさしい食生活の定着に向けた取組みが必要です。

日頃から環境に配慮した食材・食品を選んでいるか（18歳以上）



食品廃棄について（18歳以上）



		n	作りすぎないように注意している	食品の使い残しを防ぐため、必要以上に買い物しすぎないようにしている	購入する食品を決めてから買い物に行くようにしている	少量パック等の使い切れる分量を購入するようにしている	食品の性質に応じた適切な方法による保存を心がけている	調理方法を工夫し、捨てる部分が少なくなるようにしている	その他	特に気をつけていない	無回答
全体		1385	57.9	49.4	38.5	34.0	29.5	28.6	3.2	5.5	1.7
男性	18～19歳	6	33.3	33.3	－	－	－	－	－	33.3	16.7
	20歳代	43	30.2	32.6	27.9	18.6	23.3	20.9	4.7	16.3	－
	30歳代	37	32.4	29.7	24.3	24.3	13.5	8.1	－	16.2	－
	40歳代	75	42.7	37.3	24.0	22.7	13.3	16.0	2.7	14.7	－
	50歳代	70	51.4	45.7	35.7	31.4	28.6	12.9	2.9	11.4	－
	60歳代	93	51.6	51.6	31.2	32.3	23.7	19.4	1.1	10.8	2.2
	70歳以上	158	48.1	48.1	46.8	31.0	33.5	22.8	3.8	7.0	5.7
女性	18～19歳	13	23.1	53.8	23.1	15.4	30.8	30.8	－	7.7	－
	20歳代	52	44.2	57.7	40.4	25.0	21.2	11.5	1.9	3.8	－
	30歳代	116	63.8	63.8	32.8	26.7	27.6	25.0	1.7	3.4	0.9
	40歳代	137	60.6	46.0	28.5	32.1	21.9	19.0	1.5	1.5	1.5
	50歳代	141	70.9	57.4	36.2	32.6	36.9	42.6	5.0	0.7	－
	60歳代	158	69.0	48.7	46.8	39.2	34.2	41.1	3.8	0.6	－
	70歳以上	244	70.1	52.0	50.8	51.6	37.7	43.4	4.9	2.5	1.6